

保育所における感染症対策ガイドライン(2018年改訂版)(2021(令和3)年8月一部改訂)一部修正 新旧対照表

新

旧

○ガイドライン 70 ページ

別添 2 表 3 消毒薬の種類と用途

- ・消毒の濃度欄、亜塩素酸水について「ノロウイルスに関する Q&A」に合わせ遊離塩素濃度表記に修正。
- ・「有効な病原体」欄を削除し、新たに「新型コロナウイルスに対する有効性」「ノロウイルスに対する有効性」欄を追加。各消毒薬欄に○×で有効性を表示。

表 3 消毒薬の種類と用途

薬品名	塩素系消毒薬 (次亜塩素酸ナトリウム、亜塩素酸水等)		第 4 級アンモニウム塩 (塩化ベンザルコニウム等) ※1 逆性石けん又は陽イオン界面活性剤ともいう。	アルコール類 (消毒用エタノール等)
	次亜塩素酸ナトリウム	亜塩素酸水		
消毒をする場所・もの	・調理及び食事に関する用具 (調理器具、歯ブラシ、哺乳瓶等) ・室内環境 (トイレの便座、ドアノブ等) ・衣類、シーツ類、遊具等 ・嘔吐物や排泄物が付着した箇所	・調理及び食事に関する用具 (調理器具、歯ブラシ、哺乳瓶等) ・室内環境 (トイレの便座、ドアノブ等) ・衣類、シーツ類、遊具等 ・嘔吐物や排泄物が付着した箇所	・手指 ・室内環境、家具等 (浴槽、沐浴槽、トイレのドアノブ等) ・用具類 (足浴バケツ等)	・手指 ・遊具 ・室内環境、家具等 (便座、トイレのドアノブ等)
消毒の濃度	・0.02% (200ppm) 液での拭き取りや浸け置き ・嘔吐物や排泄物が付着した箇所: 0.1% (1,000ppm) 液での拭き取りや浸け置き	・遊離塩素濃度 25ppm (含量 亜塩素酸として 0.05% 相当) 以上) 液での拭き取りや浸け置き ・嘔吐物や排泄物が付着した箇所: 遊離塩素濃度 100ppm (含量 亜塩素酸として 0.2% 相当) 以上) 液での拭き取りや浸け置き	・0.1% (1,000ppm) 液での拭き取り ・食器の漬け置き: 0.02% (200ppm) 液	・原液 (製品濃度 70~80% の場合)
留意点	・酸性物質 (トイレ用洗剤等) と混合すると有毒な塩素ガスが発生するので注意する。 ・吸引、目や皮膚に付着すると有害であり、噴霧は行わない。 ・金属腐食性が強く、錆びが発生しやすいので、金属には使えない。 ・嘔吐物等を十分拭き取った後に消毒する。また、哺乳瓶は十分な洗浄後に消毒を行う。	・酸性物質 (トイレ用洗剤等) と混合すると有毒な塩素ガスが発生するので注意する。 ・吸引、目や皮膚に付着すると有害であり、噴霧は行わない。 ・ステンレス以外の金属に対して腐食性があるので注意する。 ・嘔吐物等を十分拭き取った後に消毒する。また、哺乳瓶は十分な洗浄後に消毒を行う。	・経口毒性が高いため、飲飲に注意する。 ・一般の石けんと同時に使うと効果がなくなる。 ・刺激性があるので、傷や手荒れがある手指には用いない。 ・引火性に注意する。 ・ゴム製品、合成樹脂等は、変質するので長時間浸さない。 ・手洗いで、アルコールを含ませた脱脂綿やウェットティッシュで拭き自然乾燥させる。	・刺激性があるので、傷や手荒れがある手指には用いない。 ・引火性に注意する。 ・ゴム製品、合成樹脂等は、変質するので長時間浸さない。 ・手洗いで、アルコールを含ませた脱脂綿やウェットティッシュで拭き自然乾燥させる。
新型コロナウイルスに対する有効性	○ (ただし手指には使用不可) ※2	○ (ただし手指への使用上の効果は確認されていない) ※2	○ (ただし手指への使用上の効果は確認されていない) ※2	○ ※2
ノロウイルスに対する有効性	○ ※3	○ ※3	×	×
消毒薬が効きにくい病原体			結核菌、大部分のウイルス	ノロウイルス、ロタウイルス等
その他	直射日光の当たらない涼しいところに保管。	直射日光の当たらない涼しいところに保管。	希釈液は毎日作りかえる。	

表 3 消毒薬の種類と用途

薬品名	塩素系消毒薬 (次亜塩素酸ナトリウム、亜塩素酸水等)		第 4 級アンモニウム塩 (塩化ベンザルコニウム等) ※1 逆性石けん又は陽イオン界面活性剤ともいう。	アルコール類 (消毒用エタノール等)
	次亜塩素酸ナトリウム	亜塩素酸水		
消毒をする場所・もの	・調理及び食事に関する用具 (調理器具、歯ブラシ、哺乳瓶等) ・室内環境 (トイレの便座、ドアノブ等) ・衣類、シーツ類、遊具等 ・嘔吐物や排泄物が付着した箇所	・調理及び食事に関する用具 (調理器具、歯ブラシ、哺乳瓶等) ・室内環境 (トイレの便座、ドアノブ等) ・衣類、シーツ類、遊具等 ・嘔吐物や排泄物が付着した箇所	・手指 ・室内環境、家具等 (浴槽、沐浴槽、トイレのドアノブ等) ・用具類 (足浴バケツ等)	・手指 ・遊具 ・室内環境、家具等 (便座、トイレのドアノブ等)
消毒の濃度	・0.02% (200ppm) 液での拭き取りや浸け置き ・嘔吐物や排泄物が付着した箇所: 0.1% (1,000ppm) 液での拭き取りや浸け置き	・0.05% (500ppm) 液での拭き取りや浸け置き ・嘔吐物や排泄物が付着した箇所: 0.2% (2,000ppm) 液での拭き取りや浸け置き	・0.1% (1,000ppm) 液での拭き取り ・食器の漬け置き: 0.02% (200ppm) 液	・原液 (製品濃度 70~80% の場合)
留意点	・酸性物質 (トイレ用洗剤等) と混合すると有毒な塩素ガスが発生するので注意する。 ・吸引、目や皮膚に付着すると有害であり、噴霧は行わない。 ・金属腐食性が強く、錆びが発生しやすいので、金属には使えない。 ・嘔吐物等を十分拭き取った後に消毒する。また、哺乳瓶は十分な洗浄後に消毒を行う。	・酸性物質 (トイレ用洗剤等) と混合すると有毒な塩素ガスが発生するので注意する。 ・吸引、目や皮膚に付着すると有害であり、噴霧は行わない。 ・ステンレス以外の金属に対して腐食性があるので注意する。 ・嘔吐物等を十分拭き取った後に消毒する。また、哺乳瓶は十分な洗浄後に消毒を行う。	・経口毒性が高いため、飲飲に注意する。 ・一般の石けんと同時に使うと効果がなくなる。 ・刺激性があるので、傷や手荒れがある手指には用いない。 ・引火性に注意する。 ・ゴム製品、合成樹脂等は、変質するので長時間浸さない。 ・手洗いで、アルコールを含ませた脱脂綿やウェットティッシュで拭き自然乾燥させる。	・刺激性があるので、傷や手荒れがある手指には用いない。 ・引火性に注意する。 ・ゴム製品、合成樹脂等は、変質するので長時間浸さない。 ・手洗いで、アルコールを含ませた脱脂綿やウェットティッシュで拭き自然乾燥させる。
有効な病原体	全ての一般細菌、真菌、結核菌、ウイルス (※2 新型コロナウイルスを含む)	大腸菌、サルモネラ菌、セラクス菌 (芽菌)、カンピロバクター菌、腸球菌、緑膿菌、黄色ブドウ球菌、モルガネラ菌真菌、※2 新型コロナウイルス (手指への使用上の効果は確認されていない)	全ての一般細菌、真菌、結核菌、大部分のウイルス	全ての一般細菌、結核菌、真菌、一部のウイルス (※2 新型コロナウイルスを含む)
消毒薬が効きにくい病原体			結核菌、大部分のウイルス	ノロウイルス、ロタウイルス等
その他	直射日光の当たらない涼しいところに保管。	直射日光の当たらない涼しいところに保管。	希釈液は毎日作りかえる。	

※3 ノロウイルスの消毒、除菌方法に関する、消毒薬の使用方法について「ノロウイルスに関する Q&A (厚生労働省)」のホームページ URL を追記。

・表4 次亜塩素酸ナトリウム及び亜塩素酸水の希釈方法  
 亜塩素酸水の調整する濃度欄について「ノロウイルスに関する Q&A」に合わせ遊離塩素濃度表記に修正。希釈法欄に(2倍希釈)、(8倍希釈)を追記。

- ※1 通常の衛生管理における消毒については、消毒をする場所等に応じ、医薬品・医薬部外品として販売されている製品を用法・用量に従って使い分ける。ただし、嘔吐物や排泄物、血液を拭き取る場合等については、消毒用エタノール等を用いて消毒を行うことは適当でなく、塩素系消毒薬を用いる。
- ※2 新型コロナウイルスの消毒、除菌方法に関する、上記の消毒薬の使用法の詳細については、「新型コロナウイルスの消毒・除菌方法について(厚生労働省・経済産業省・消費者庁特設ページ)」  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/syoudoku\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/syoudoku_00001.html) を参照してください。  
 (→SSPに参考資料として掲載)

※3 ノロウイルスの消毒、除菌方法に関する、上記の塩素系消毒薬の使用法の詳細については、「ノロウイルスに関する Q&A (厚生労働省)」  
<https://www.mhlw.go.jp/content/11130500/000656719.pdf> を参照してください。

<塩素系消毒薬の希釈方法>

- 次亜塩素酸ナトリウム(製品濃度が約6%の場合)、亜塩素酸水(製品濃度が約0.4%の場合)の希釈方法は、以下のとおりである。なお、使用する製品の濃度を確認の上、用法・用量に従って使用することが重要である。

表4 次亜塩素酸ナトリウム及び亜塩素酸水の希釈方法

	消毒対象	調整する濃度 (希釈倍率)	希釈法
ナトリウム 次亜塩素酸	・嘔吐物や排泄物が付着した床・物 ※衣類等に嘔吐物や排泄物が付着した場合はこちらの濃度で使用	0.1% (1000ppa)	水1Lに対して約20mL (めやすとしては、500mLペットボトルにキャップ2杯弱)
	・衣類等の浸け置き ・食器等の浸け置き ・トイレの便座、ドアノブ、手すり、床等	0.02% (200ppa)	水1Lに対して約4mL (めやすとしては、500mLペットボトルにキャップ0.5杯弱)
亜塩素酸水	・嘔吐物や排泄物が付着した床・物 ※衣類等に嘔吐物や排泄物が付着した場合はこちらの濃度で使用	遊離塩素濃度100ppm 含量 亜塩素酸として 0.2%(2000ppa)	水1Lに対して約1L (2倍希釈)
	・衣類等の浸け置き ・食器等の浸け置き ・トイレの便座、ドアノブ、手すり、床等	遊離塩素濃度20ppm 含量 亜塩素酸として 0.05%(500ppa)	水1Lに対して約143mL (8倍希釈)

※1 通常の衛生管理における消毒については、消毒をする場所等に応じ、医薬品・医薬部外品として販売されている製品を用法・用量に従って使い分ける。ただし、嘔吐物や排泄物、血液を拭き取る場合等については、消毒用エタノール等を用いて消毒を行うことは適当でなく、塩素系消毒薬を用いる。

※2 新型コロナウイルスの消毒、除菌方法に関する、上記の消毒薬の使用法の詳細については、「新型コロナウイルスの消毒・除菌方法について(厚生労働省・経済産業省・消費者庁特設ページ)」  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/syoudoku\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/syoudoku_00001.html) を参照してください。  
 (→SSPに参考資料として掲載)

<塩素系消毒薬の希釈方法>

- 次亜塩素酸ナトリウム(製品濃度が約6%の場合)、亜塩素酸水(製品濃度が約0.4%の場合)の希釈方法は、以下のとおりである。なお、使用する製品の濃度を確認の上、用法・用量に従って使用することが重要である。

表4 次亜塩素酸ナトリウム及び亜塩素酸水の希釈方法

	消毒対象	調整する濃度 (希釈倍率)	希釈法
ナトリウム 次亜塩素酸	・嘔吐物や排泄物が付着した床・物 ※衣類等に嘔吐物や排泄物が付着した場合はこちらの濃度で使用	0.1% (1000ppa)	水1Lに対して約20mL (めやすとしては、500mLペットボトルにキャップ2杯弱)
	・衣類等の浸け置き ・食器等の浸け置き ・トイレの便座、ドアノブ、手すり、床等	0.02% (200ppa)	水1Lに対して約4mL (めやすとしては、500mLペットボトルにキャップ0.5杯弱)
亜塩素酸水	・嘔吐物や排泄物が付着した床・物 ※衣類等に嘔吐物や排泄物が付着した場合はこちらの濃度で使用	0.2% (2000ppa)	水1Lに対して約1L
	・衣類等の浸け置き ・食器等の浸け置き ・トイレの便座、ドアノブ、手すり、床等	0.05% (500ppa)	水1Lに対して約143mL